

海士町に「緩和ケア認定看護師」誕生

海士診療所の淀みゆき主任看護師は、昨年6月から12月の7か月間、島根県立大出雲キャンパスにおいて、緩和ケア領域の認定看護師教育課程を受講し、誇るべき第1回修了生となり、その後、今年5月の認定試験で見事合格を果たしました。

認定看護師とは、「特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践を行い、看護ケアの質の向上を図る」ために始まった資格制度です。その領域は21領域が設定されており、緩和ケアとは、がん患者とその家族一人一人の身体や心など



の様々なつらさを早期から和らげ、より豊かな人生を送ることができるよう支えていくケアとされています。

淀看護師は、住み慣れた故郷で最期を迎えられず、遠く離れた病院でひとり寂しく過ごされる高齢者が多いことに胸を痛めていました。地元で不安や苦痛なく最期まで自分らしく生きてほしいとの思いから、認定看護師を目指しました。

慣れ親しんだ人、自然、歴史、文化の中で在宅医療を受けられることは、町民にとって非常に心強いことでもあります。

今後は、習得した専門的知識と熟練した看護技術を用い、町内看護現場のリーダーとしての活躍に期待します。

(海士診療所)

いざ、5年に一度の“和牛日本一”決定戦へ！ (株)隠岐牛企画から肥育牛が出品



9月7日〜11日、仙台で行われた第11回全国和牛能力共進会（以下全共）肉牛の部に、(株)隠岐牛企画の井上静雄さんの肥育牛「恵美戸離」号が島根県代表牛として出品されました。5年前の前回大会で隠岐から初選出となり、このたび2大会連続、2度目の選出となります。

全共は、畜産の技術力向上と発展を目的とした大会で、その規定は厳しく、今回島根県は約150頭を候補牛とし、1年半をかけて毎月審査を行ない、発育状況や体型、バランスなどから徐々に候補牛をしぼり、今大会肉牛の部は8頭の代表牛を選出しました。「恵美戸離」号は発育が良好で、エコーによる肉質検査はもちろんのこと、十分な体積や肉付き、全体のバランスが島根県トップクラス

の評価を受け、肉牛の部（第7区総合評価群）での選出となりました。

全共では、通常肥育が月齢28ヶ月〜36ヶ月であるのに対し、24ヶ月と超短期肥育でありながら質、量ともに十分満足できるものを枝肉とする規程が設けられており、超短期肥育を目指すことに



井上静雄さんと、恵美戸離（めぐみみどり）号

より畜産農家の生産性向上と産肉性向上を目指しています。超短期肥育には肥育牛の高度なコントロールが求められ、高い技術が必要です。

今大会は、全国39道府県から種牛の部、肉牛の部合わせて約500頭が出品されました。また全共は将来の和牛へのニーズを占う意味でも大きな役割を担っています。

隠岐牛企画では、井上静雄さんの指導の下、山河文広さん、藤本淳さん、井上由貴さんがスタッフとして今回の代表牛の肥育に挑みました。若い畜産後継者の活躍もあった今大会を機に、隠岐地区の畜産が今後益々発展することを期待します。

(地産地商標 原孝平)

職場体験

『役場と地域との繋がり』

7月10日(月)～14日(金)、インターンシップ(職業体験)として、隠岐島前高校2年生の濱 優花さん(西ノ島町出身)が、海士町役場等で仕事をいたしました。

本人による体験記を掲載します。

7月10日【海士町中央図書館】

はじめ図書館についての説明があり、海士町は『島まるごと図書館』という取り組みを行っていることを知りました。この取り組みは、海士町中央図書館を中心に保育所～高校の学校図書館や塾など19ヶ所に本を置き、どこでも本を返すことが出来るように返却ポストを町内8ヶ所に設置し、海士町中央図書館だけでなく色々な場所で本を借りることが出来るというものです。はじめ図書館すらなかったということを知ると驚きませんでした。書架整理を行っている際、こんなにたくさん本もはじめはなく、地域の方たちも本と親しむ事が少なかつたのかなと



永海館長と、本の保護カバーをかける作業

思いました。なので、この図書館があることよって本と親しむ人が増え、本を好きになる人がもつと増えるといいなと思いました。

7月11日【海士町観光協会】

観光協会で一番印象に残った内容は長崎の五島と広島から来た団体の方たちと一緒に海士町をバスで回ったことです。印象に残った理由は、五島や広島の方たちと直接お話しできる機会はあまりなく、貴重だと思ったからです。自分は海士の

ことをあまり知らなかつたので、この体験はとて有難かつたです。その団体の何人かの方が「島前高校に通えて良いねえ」「島前はいいね」と仰しゃっていて、その通りだなと思ひました。自然が豊かで、地域の人たちの温かみを感じられるこの島前はとてもいい場所だと改めて感じました。



視察資料や本気米サンプルを配布する準備

7月12日【役場 総務課】

総務課では、『まちづくり甲子園』のお弁当の発注表を作り、島じや常識店と島飯屋に直接お願いをしに行きました。どちらのお店も快く引き受けてくれて、この体験を通じ、役場と地域の方々は深い繋がりを持っていることが分かりました。

7月13日【役場 地産地商課】

地産地商課では、倉庫の清掃を行いました。私は役場といえばパソコンで作業するイメージが強かつたので、倉庫の清掃と聞いて少し驚きました。海士町には清掃業者がいないため、役場が清掃をしています。倉庫の中は物が多く、夏場だと暑いため大変な作業だと身をもって感じました。

まとめ

今回の体験で気づいたことは、役場はパソコンを使用する仕事だけじゃなく、地域の清掃や、海士についての説明を行ったりたくさんの方の話を聞いたり体験をしたりして、仕事の大変さや地域との関わりが大切なことが分かりました。私は地域の活動にあまり参加をしていません。なのでこれを機に地域での活動に参加し、たくさんの方と繋がりを持つことが出来ればいいなと思いました。また、インターンシップで聞いた話や体験したことを他の人にどんどん伝えていくことができたらいいいなと思いました。

(隠岐島前高校2年 濱 優花)